

事業所名

希望の丘鹿島（放課後等デイサービス）

支援プログラム

作成日

2026年

4月

20日

法人（事業所）理念		子どもたちは遊びを通してたくさんの方の力を学んでいきます。子どもたちの力を信じて時には見守り、時には仲立ちをし、一人ひとりの気持ちや発達に寄り添う支援を大切にしています。感性を育てることに力を入れ、子どもだけでなく職員も心が動く経験をたくさん持つように意識しています。子どもも保護者も職員も『共に育つ』が法人の理念です。							
支援方針		小集団を活かし、職員やお友達との実際の関わりを通して、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの向上を目指します。職員が設定する活動もありますが、子どもたちが主体的に遊びを選び、挑戦できる環境を大切にしています。苦手なことの底上げより、一人ひとりの得意を見つけ、伸ばして自信を育てる支援をしています。							
営業時間		放課後	14時	00分	17時	00分	送迎実施の有無	あり	なし
		学休日	9時	00分	17時	00分			
		土曜日	8時	00分	14時	00分			
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・来所時に健康チェック（体温測定や視診、保護者からの聞き取り）を行います。自分でも体調の変化に気付けるように、その時の体調を代弁して本人へ伝え返すこともしていきます。 ・散歩や戸外遊び（公園など）を通して、季節の自然に触れながらたくさん身体を動かします。 ・その日の利用児を名前シールで掲載することで、文字への関心を育てます。また、ホワイトボードを使ってその日の活動の流れや宿題の時間を伝え、先の見通しが持てる環境を設定します。（様々な場面において自分で決めることを大切にしている為、宿題の時間も活動も子どもたちと話し合っ決めて決めます。意思決定ができる場面を増やします。） 							
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・跳ぶ、くぐる、バランスをとる等の全身運動を通して、体幹の安定やバランス感覚、身体の協調性を育てます。身体のコントロールが苦手な子もいるため、必要に応じてマットなどを下に敷き安全に留意します。 ・音への敏感さがある子や大勢の人と一緒にいることが苦手な子に対しては、静かな部屋を用意することで安心して過ごせるよう配慮します。（カームダウンスペース） ・自然物や様々な素材に触れながら五感を使い、自分から遊びや製作などに取り組んでみようとする気持ちを育てます。 							
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・廃材や自然物を使って自由に制作できる環境を設定し、物の大きさや硬さ、色など様々なものに触れられる機会を作ります。 ・『やってみよう』『やってみたいな』という、子どもたちから自然と出てくるひらめきや言葉を大切にし、その思いに対して挑戦できる環境を意識しています。また一人ひとりの思いが違う為、職員が仲立ちし伝え合ったり見せ合ったりすることで、新しい発見をしたりその物の可能性を更に広げられるように支援します。 ・遊びや活動の区切りをつける際、時計で終わりを伝えたり次の活動に見通しが持てるようにすることで、次に何をしたらいいのか自分で考え行動できるようにします。 							
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分で選択できるように、短めの読みやすい本だけでなく文字で読み進めていく本も用意し、本を通して出会う言葉を大切にします。また、迷路やまちがい探しなどの遊べる本から子ども達の発見やその発見を人に伝えたい気持ちを引き出し、子ども同士を繋げます。静の遊びになるので、落ち着いて楽しめるスペースを確保します。 ・小集団を活かし、お互いの思いがしっかり伝え合えるよう職員が必要に応じて仲立ちをしていきます。子ども達がそれぞれ自分なりの表現方法で伝えたいことが表出できるよう、一人ひとりの子どもに合った支援をし、お互いにとって心地よいコミュニケーションを育てます。 							
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・廃材コーナーでの製作を通して、お友達の作っている物に興味を持ち真似をしてみたり同じ空間で遊ぶことで遊びを共有してみたりと、自分だけでは思いつかなかった発想やひらめきに繋がります。 ・人と関わることが苦手な子に対しては、関わりの楽しさを自然な形で感じてもらえるように遊びの中で職員が仲立ちをし、社会性の発達を支援します。 ・一人ひとりが自分を素直に表現する中で相手との関わりを深めます。そのためにも、集団を意識できるようにルールのある遊びを支援の中に取り入れ、相手の思いや自分の気持ち（情動の調整）が理解できるようにします。 							
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ・利用児に関わらず、きょうだい児に対しての相談も随時行います。送迎の際や日時を設けての相談など、保護者のご希望に沿って対応いたします。 ・土曜日に不定期でイベント開所を行います。利用児だけでなくご家族で参加していただくことで、家族でふれあいながら楽しい時間を過ごしていただきます。（同時に保護者交流会も行います） 				移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・関係している機関との会議を利用児ごとに行います。会議では、それぞれの施設の様子を共有したり、一人ひとりに合った目標や支援を検討していきます。施設ごとの特徴はありながらも過ごす場所によって支援の方法が変わらないように、方向性の統一を図ります。 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> ・併設されているOhanaPlace鹿島の子どもたちとの交流や、地域の施設・公園などの活用を通して、地域で過ごすためのルールを学んだり地域の方と挨拶を交わすことで地域交流の機会を持つたりしています。 ・利用児に関わる全ての関係機関と必要に応じて情報共有を行います。 				職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・職員が受けたいと思う研修の資料提供をし、積極的に研修に参加できる機会を作っています。また、事業所運営に必要な研修も、外部研修や施設内研修によって受けられるようにしています。 ・保護者と小学校の了承を得て小学校へ出向き、利用児の参観や先生と支援についての話し合いをします。逆に療育の現場を見に来てもらい、検討会を行うこともあります。 	
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回行う避難訓練では、職員の動きを確認するとともに、子どもたちも震災の意識が持てるようにその都度話をします。 ・食育の一環としてクッキングを行います。 ・季節の行事を伝えるために、製作を通して遊びを楽しみます。 							